

修士課程（昼間）

1. 履修上の注意

経営学研究科経営学専攻修士課程（昼間）では、2023 年度よりカリキュラムを変更しました。これに伴い、2023 年度以降入学者と 2022 年度以前入学者では修了要件が一部異なりますのでご注意ください。

※修了要件の大枠については、23 ページの修了要件も参照してください。

（1）新カリキュラム（2023 年度以降入学者）の修了要件

2 年以上在学し、指導教員の指導のもとに授業科目より 32 単位以上を選択履修し、リサーチペーパーの審査ならびに最終試験に合格することが修了要件です。

本学博士後期課程への進学希望者、及び資格の取得上、修士論文の作成が必要な方は、指導教員の許可を受けた上で、30 単位以上を選択履修し、修士論文の審査ならびに最終試験に合格することが修了要件となります。

科目種別	修了所要単位	履修上の指示
経営学専攻（修士論文・昼間）設置科目		
経営学専攻（修士論文・夜間）設置科目		16 単位まで
他専攻科目		10 単位まで
合計	32 単位以上 ※修士論文での修了の場合は 30 単位以上	

（2）旧カリキュラム（2022 年度以前入学者）の修了要件

2 年以上在学し、指導教員の指導のもとに授業科目より 30 単位以上を選択履修し、修士論文の審査ならびに最終試験に合格することが修了要件です。

科目種別	修了所要単位	履修上の指示
経営学専攻（修士課程・昼間）設置科目		
経営学専攻（修士課程・夜間）設置科目		16 単位まで
他専攻科目		10 単位まで
合計	30 単位以上	

（3）履修上の指示（新旧カリキュラム共通事項）

- 論文指導科目（「経営学演習Ⅰ・Ⅱ」）の履修年次は2年次です。論文指導科目の修得単位は、4単位まで修了所要単位に含めることができます。
- 本専攻の修士課程（夜間）の設置科目（「演習」を除く）は、担当教員の許可を得た上で16単位を上限として履修可能、かつ修了所要単位に含めることができます。
- 他専攻設置科目及び他の大学院で修得した単位は、合計して10単位を上限として修了所要単位に含めることができます。
- 留学生は、日本語論文作成のための研究科共通科目「日本語論文作成 AⅠ・AⅡ」「日本語論文作成 BⅠ・BⅡ」を履修できます。履修希望者は「研究科共通 日本語科目」の項も参照してください（212 ページ）。この科目の単位を修得した場合は、他専攻設置科目及び他の大学院で修得した単位と合わせて10単位まで修了所要単位に含めることができます。

2. 修士課程科目担当者一覧

【連続】：前年度までに履修して単位を修得した科目を今年度もう一度履修すること。

【重複】：同じ年度内に、同じ名前の科目を複数履修すること。

【他専攻】：他専攻の学生が履修可能な科目。

授業科目	担当教員名	単位	連続	重複	他専攻	備考
経営学基礎論	福島英史	2	○		○	夜間コース共通と合同：経営学基礎
人的資源管理特論Ⅱ	藤本真	2	○		○	
国際経営特論Ⅰ	安藤直紀	2	○		○	
国際経営特論Ⅱ	安藤直紀	2	○		○	
財務会計論Ⅰ	川島健司	2	○		○	学部と合同：財務会計論Ⅰ
財務会計論Ⅱ	川島健司	2	○		○	学部と合同：財務会計論Ⅱ
経営分析論Ⅰ	福多裕志	2	○		○	学部と合同：経営分析論Ⅰ
経営分析論Ⅱ	福多裕志	2	○		○	学部と合同：経営分析論Ⅱ
財務諸表分析	高橋美穂子	2	○		○	
管理会計特論Ⅰ	福田淳児	2	○		○	
管理会計特論Ⅱ	福田淳児	2	○		○	
ミクロ経済論Ⅰ	金澤匡剛	2	○		○	
ミクロ経済論Ⅱ	金澤匡剛	2	○		○	
組織経済学	奥西好夫	2	○		○	学部と合同：組織経済学
ファイナンス入門	岸本直樹	2	○		○	
ポートフォリオ理論入門	岸本直樹	2	○		○	学部と合同：ポートフォリオ理論入門
デリバティブ入門Ⅰ	山崎輝	2	○		○	学部と合同：デリバティブ入門Ⅰ
デリバティブ入門Ⅱ	山崎輝	2	○		○	学部と合同：デリバティブ入門Ⅱ
国際経済学Ⅰ	高橋理香	2	○		○	学部と合同：国際経済学Ⅰ
国際経済学Ⅱ	高橋理香	2	○		○	学部と合同：国際経済学Ⅱ
国際金融論特論Ⅰ	横内正雄	2	○		○	
国際金融論特論Ⅱ	横内正雄	2	○		○	
産業組織論Ⅰ	大木良子	2	○		○	学部と合同：産業組織論Ⅰ
産業組織論Ⅱ	大木良子	2	○		○	学部と合同：産業組織論Ⅱ
日本経済特論Ⅰ	平田英明	2	○		○	学部と合同：日本経済論Ⅰ
日本経済特論Ⅱ	平田英明	2	○		○	学部と合同：日本経済論Ⅱ
統計学Ⅰ	猪狩良介	2	○			学部と合同：経営のための統計学Ⅰ
統計学Ⅱ	高橋慎	2	○		○	学部と合同：経営のための統計学Ⅱ
物流管理特論Ⅰ	李瑞雪	2	○		○	
物流管理特論Ⅱ	李瑞雪	2	○		○	
経営学演習Ⅰ	吉田健二	2	○			
経営学演習Ⅱ	吉田健二	2	○			
経営学演習Ⅰ	安藤直紀	2	○			
経営学演習Ⅱ	安藤直紀	2	○			
経営学演習Ⅰ	李瑞雪	2	○			
経営学演習Ⅱ	李瑞雪	2	○			
経営学演習Ⅰ	北田皓嗣	2	○			
経営学演習Ⅱ	北田皓嗣	2	○			
経営学演習Ⅰ	長岡健	2	○			
経営学演習Ⅱ	長岡健	2	○			
経営学演習Ⅰ	戎谷梓	2	○			
経営学演習Ⅱ	戎谷梓	2	○			
経営学演習Ⅰ	長谷川翔平	2	○			
経営学演習Ⅱ	長谷川翔平	2	○			
経営学演習Ⅰ	竹内淑恵	2	○			

授業科目	担当教員名	単位	連続	重複	他専攻	備考
経営学演習Ⅱ	竹 内 淑 恵	2	○			
経営学演習Ⅰ	猪 狩 良 介	2	○			
経営学演習Ⅱ	猪 狩 良 介	2	○			

※法政大学大学院学則の授業科目一覧表に記載のある科目で、上記一覧表に記載のない科目は、2023年度休講です。

3. 講義概要（シラバス）

授業科目の講義概要および教員の主要研究業績については、Web シラバスを参照してください。

Web シラバス URL : <https://syllabus.hosei.ac.jp/>

4. 経営学専攻 論文執筆の手引き（昼間・夜間共通）

論文執筆の手引きについては、181 ページを参照してください。

修士課程（夜間）

1. 履修上の注意

（１）修了要件

科目種別	修了所要単位	備考
所属コース論文指導科目（必修科目）	4 単位	
所属コース選択必修科目	16 単位以上	
選択科目（コース共通科目、他コース科目等）		所属コース選択必修科目の単位のうち、16 単位を超える単位については選択科目扱いとなる
合計	30 単位以上	

2 年以上在学し、上記単位の修得のほか、指導教員の指導のもと、修士論文の審査ならびに最終試験に合格することが修了要件です。

※修了要件の大枠については、23 ページの修了要件も参照してください。

（２）カリキュラムおよび履修上の指示

経営学専攻 修士課程（夜間）の設置科目

コース	履修区分	科目名	単位	履修年次	修了所要単位	
企業家養成	論文指導科目(必修)	企業家養成演習	2	2 年次必修	4 単位	20 単位以上
	選択必修科目	ワークショップ（企業家養成）	4	1 ～ 2 年次	16 単位以上	
		企業家活動	4			
		企業家史	4			
		経営史	4			
		経営戦略論	4			
		イノベーション・マネジメント概論	4			
		企業家養成特殊研究	4			
		企業間関係論	2			
人材・組織マネジメント	論文指導科目(必修)	人材・組織マネジメント演習	2	2 年次必修	4 単位	20 単位以上
	選択必修科目	ワークショップ（人材・組織マネジメント）	4	1 ～ 2 年次	16 単位以上	
		人的資源管理論	4			
		キャリアマネジメント論	4			
		人事制度論	4			
		労働市場論	4			
		労使コミュニケーション論	4			
		経営組織論	4			
		組織行動論	4			
		経営情報論	4			
		人材・組織マネジメント特殊研究	2			
		国際人事	2			
マーケティング	論文指導科目(必修)	マーケティング演習	2	2 年次必修	4 単位	20 単位以上
	選択必修科目	ワークショップ（マーケティング）	4	1 ～ 2 年次	16 単位以上	
		マーケティング論	4			
		消費者行動論	4			
		マーケティング・リサーチ論	4			
		製品開発論	4			
		マーケティング・サイエンス論	4			
		サービス・マネジメント論	4			
		流通システム論	4			
		定性的方法論	2			
		国際マーケティング論	2			
		物流管理論	4			

合計 30 単位以上

コース	履修区分	科目名	単位	履修年次	修了所要単位		
アカウン テイング・ ファイナ ンス	論文指導科目(必修)	アカウンティング・ファイナンス演習	2	2年次必修	4単位	20 単位 以上	合計 30 単位 以上
	選択必修科目	ワークショップ(アカウンティング・ファイナンス)	4	1～2年次	16単位 以上		
		管理会計論	4				
		財務会計論	4				
		税務会計論	4				
		会計情報論	4				
		経営分析	4				
		租税法	4				
		基礎ファイナンス	4				
		実証ファイナンス入門	4				
		インベストメント理論	4				
		コーポレート・ファイナンス	2・4				
		コース共 通	選択科目				
会計学基礎	2						
経済学基礎	2						
日本経済基礎	2						
情報学特論	2						
情報技術特論	2						
e-ビジネス論	2						
統計データ解析	4						
外国語経営学特殊講義 1	2						
外国語経営学特殊講義 2	2						
国際経営論	4						
地域経済研究 (アメリカ)	4						
地域経済研究 (EU)	4						
地域経済研究 (アジア)	4						
経営特殊研究	2・4						

①開設科目および単位について

- ・ 所属コースの「演習」の修得単位は、4単位まで修了所要単位に算入することができます。なお、「演習」は修論指導のために設置されている科目であり、他専攻及び他コースの学生は履修できません。
- ・ 「演習」の履修年次は2年次です。1年次生は履修できません。ただし1年次でも、修学期間（休学期間は含まない）が既に2セメスター分（通算して1.0年在学）に達した場合は、履修することができます。例えば、入学年度に半期休学した場合、進級条件を満たす在学年数に達せず翌年度も引き続き1年次生として在学することになりますが、この2年目の1年次の春学期を終えた時点で、修学期間は2セメスターに達するため、この年度の秋学期から「演習」を履修することができます。

この条件が適用される1年次生で、「演習」の履修を希望する学生は、事前に大学院課までご相談ください。なお、2年次生で前年度休学しており、演習科目の担当教員名欄に指導教員の記載がない場合には、指導教員と事務へ至急連絡の上、履修登録について確認してください。

標準修業年限（2年）を超えて在籍する方で、引き続き研究指導を受ける場合は、必ず「演習」を履修してください。

- ・ 「演習」の時間割は一律土曜6限に設定します。同じ時限に別の授業科目の履修を希望し時間割が重複する場合は指導教員にご相談ください。
- ・ 所属コースの「ワークショップ」の修得単位は、8単位まで選択必修科目として修了所要単位に算入されます。また、それを超える修得単位は選択科目として修了所要単位に算入することができます。「ワークショップ」は、複数のコースによって合同で開催されることがあります。なお、マーケティングコースに所属する学生は、原則1年次から毎年度「ワークショップ」を履修することが必要です。
- ・ 所属コースの「演習」と「ワークショップ」以外の科目について、同名科目を連続（重複）履修することは可能ですが、修了所要単位に算入できるのは、1回の履修によって得た修得単位のみです。なお、修得単位数が異なる同名科目を連続（重複）履修した場合は、もっとも多い修得単位数が修了所要単

位に算入されます。

- ・他コースの設置科目は、「演習」を除いて自由に履修し、選択科目として修了所要単位に算入することができます。

②修士課程・昼間、および他専攻・他大学設置科目の履修について

- ・経営学専攻修士課程・昼間の設置科目は、2科目まで履修し、選択科目として修了所要単位に算入することができます。
- ・他専攻設置科目は合計10単位まで修了所要単位に算入することができます。他専攻設置科目を履修する際は、必ず以下の注意事項をご確認ください。
- ・経済学研究科経済学専攻の設置科目は、担当教員の承認を得れば履修することができ、8単位まで選択科目として修了所要単位に算入することができます。
- ・キャリアデザイン学研究科キャリアデザイン学専攻、イノベーションマネジメント研究科イノベーションマネジメント専攻の設置科目は、担当教員の承認を得れば履修することができ、10単位まで選択科目として修了所要単位に算入することができます。
- ・政治学研究科政治学専攻の設置科目は、担当教員の承認を得れば、10単位まで履修し、選択科目として修了所要単位に算入することができます。
- ・他専攻設置科目を履修する場合、科目名が経営学専攻で開講されている選択必修科目と同名であっても選択必修科目としては読み替えられませんのでご注意ください。
- ・留学生は、日本語論文作成のための研究科共通科目「日本語論文作成AⅠ・AⅡ」「日本語論文作成BⅠ・BⅡ」を履修することができます。履修希望者は「研究科共通 日本語科目」の項も参照してください（212ページ）。この科目の単位を修得した場合は、選択科目の単位に含めることができます。

③関西学院大学大学院との履修交流について

経営学専攻修士課程（夜間）では、関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科と修士課程学生の授業科目履修交流および履修交流に基づく転学制度の協定を結んでいます。

A. 履修交流

- ・履修交流申請

①大学院ホームページ「他大学・他大学院との連携」から所定の書式を出力し手続きを行う必要があります。履修登録は春、秋の年2回可能です。本学の履修登録期間よりも早いためご注意ください（春：4月初頭まで、秋：9月中旬まで）。詳細は、大学院課にお問い合わせください。

②関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科の講義要項・時間割は、大学院ホームページ「他大学・他大学院との連携」から閲覧することができます。

③聴講料は、2単位につき1,000円です。

- ・単位認定

履修した授業科目の単位は、修了要件である30単位のうち、課程修了に必要な単位として2科目8単位を限度に認定します。

B. 転学制度

本学経営学専攻修士課程（夜間）の在籍者で、履修交流申請により関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科の授業を履修中の学生が、勤務先における転勤等のため、関西地区へ異動となった場合、経営学研究科の承認を得て関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科への転学の申請を行い、審査に合格した場合に転学できる制度を設けています。詳細については、「大学院履修交流に関する協定書」に記載がありますので、大学院課にお問い合わせください。

2. 修士課程科目担当者一覧

【連続】：前年度までに履修して単位を修得した科目を今年度もう一度履修すること。

【重複】：同じ年度内に、同じ名前の科目を複数履修すること。

【他専攻】：他専攻の学生が履修可能な科目。

授業科目	担当教員名	単位	連続	重複	他専攻	備考
企業家養成演習	金 容 度	2	○	○		春学期・秋学期 各2単位
	二階堂 行 宣	2	○	○		
	福 島 英 史	2	○	○		
ワークショップ（企業家養成）	金 容 度	4	○		○	
企業家活動	稲 垣 京 輔	4	○		○	
企業家史	二階堂 行 宣	4	○		○	
経営史	韓 載 香	4	○		○	
経営戦略論	吉 田 健 二	4	○		○	
人材・組織マネジメント演習	西 川 真規子	2	○	○		春学期・秋学期 各2単位
	長 岡 健	2	○	○		
	小 川 憲 彦	2	○	○		
	岸 眞理子	2	○	○		
	佐 野 嘉 秀	2	○	○		
ワークショップ （人材・組織マネジメント）	長 岡 健	4	○		○	
人的資源管理論	佐 野 嘉 秀	4	○		○	
キャリアマネジメント論	小 川 憲 彦	4	○		○	
人事制度論	奥 西 好 夫	4	○		○	連帯社会と合同：人事制度論
労働市場論	藤 本 真	4	○		○	連帯社会と合同：労働市場論
労使コミュニケーション論	呉 学 殊	4	○		○	
組織行動論	西 川 真規子	4	○		○	
経営情報論	岸 眞理子	4	○		○	
マーケティング演習	西 川 英 彦	2	○	○		春学期・秋学期 各2単位
	田 路 則 子	2	○	○		
	木 村 純 子	2	○	○		
	長谷川 翔 平	2	○	○		
	猪 狩 良 介	2	○	○		
	竹 内 淑 恵	2	○	○		
ワークショップ（マーケティング）	朝 岡 崇 史	4	○		○	
マーケティング論	竹 内 淑 恵	4	○		○	
消費者行動論	新 倉 貴 士	4	○		○	
マーケティング・リサーチ論	西 川 英 彦	4	○		○	
製品開発論	田 路 則 子	4	○		○	
流通システム論	木 島 豊 希	4	○		○	

授業科目	担当教員名	単位	連続	重複	他専攻	備考
アカウンティング・ファイナンス演習	高 橋 美穂子	2	○	○		春学期・秋学期 各 2 単位
管理会計論	福 田 淳 児	4	○		○	
財務会計論	倉 田 幸 路	4	○		○	
税務会計論	金 子 友 裕	4	○		○	
会計情報論	坂 上 学	4	○		○	
経営分析	福 多 裕 志	4	○		○	
基礎ファイナンス	山 寄 輝	4	○		○	
実証ファイナンス入門	金 瑠 晋	4	○		○	
コーポレート・ファイナンス	岸 本 直 樹	2	○		○	
経営学基礎	福 島 英 史	2	○		○	昼間コースと合同：経営学基礎論
会計学基礎	川 島 健 司	2	○		○	
情報学特論	児 玉 靖 司	2	○		○	
統計データ解析	猪 狩 良 介	4	○			
国際経営論	洞 口 治 夫	4	○		○	
地域経済研究（アジア）	苑 志 佳	4	○		○	

※法政大学大学院学則の授業科目一覧表に記載のある科目で、上記一覧表に記載のない科目は、2023 年度休講です。

3. 講義概要（シラバス）

授業科目の講義概要および教員の主要研究業績については、Web シラバスを参照してください。

Web シラバス URL : <https://syllabus.hosei.ac.jp/>

4. 経営学専攻 修士論文執筆（昼間・夜間共通）およびリサーチペーパー執筆（昼間のみ）の手引き

1. 論文（修士論文およびリサーチペーパー）執筆にあたって

（1）著作権問題

修士論文およびリサーチペーパーは内部文書等と異なり、社会的に公表されることを前提とした著作物である。優れた評価の修士論文は成果集に収められ、公表される。したがって、修士論文およびリサーチペーパーを執筆するにあたって、①他人の文章を丸写しにする、②他人の研究結果や意見を引用なしに利用する、③図表を無断でコピーする、といった行為は、「盗作」に該当し、著作権法違反という重大な犯罪行為として罰せられる。文章は自分自身で考え、自分の言葉で表現することが論文執筆の前提となる。また図表もデータの集計方法を考え、自分なりの工夫をすることが必要であり、公表データを利用する場合は、出所を明記することが不可欠である。

（2）社内文書等の取り扱い

企業から入手した内部データや社内文書の取扱いには注意されたい。特に、社会人院生が社内データを使用する場合、たとえ担当部門の了解を得ていても、それが公表された結果の反応は予想外のものとなる可能性がある。そうしたトラブルを回避するためには当事者の了解とともに、企業を特定できない形の処理等の配慮が必要となる。

2. 論文の様式

- （1）論文は日本語で書くこととする。但し、指導教員が認めれば、論文を英語で書くことができる。
- （2）ワープロ原稿を原則とし、横書きとする。日本語は全角で、英語はローマ字の半角、年号や数字は算用数字の半角とする。
- （3）A4 判で 40 字× 36 行。修士論文は 400 字詰め原稿用紙換算 50 枚以上（目次、本文、図表、参考文献を含む）、つまり 2 万字以上であるから、A4 判 40 字× 36 行で 14 枚以上となる。また論文要旨

は 2,000 字以内。リサーチペーパーは 400 字詰め原稿用紙換算 25 枚以上（目次、本文、図表、参考文献を含む）、つまり 1 万字以上であるから、A4 判 40 字× 36 行で 7 枚以上となる。またリサーチペーパー要旨は 2,000 字以内。

（4）印刷の様式については、「片面印刷」「両面印刷」のどちらでも構わない。

3. 論文の構成

3-1. 修士論文の構成

- （1）論文の構成は論文の課題と分析アプローチにより微妙に異なるが、一般的には大きく、①序論（問題の設定等）、②先行研究のレビュー、③研究内容、④結論、の 4 部構成が考えられる。以下を参考に、自分の研究課題とアプローチにふさわしい独自の構成・スタイルを工夫されたい。
- （2）「序論」では、問題の所在、論文の目的（何を明らかにしようとするのか）について触れる。また第 2 章以下の構成について簡潔に説明することは読み易さを増す。
- （3）「先行研究のレビュー」は、各研究の要約を羅列するのではなく、論点について自分自身で整理し、論文の課題に即してまとめることを目指して欲しい。その努力から、論文の意義や分析枠組が導き出される可能性が高まる。
- （4）「研究内容」の部分は理論研究か実証研究かによって構成は異なるし、実証研究であれば、計量モデル分析、歴史的な分析、事例研究等の分析アプローチがあり、同じ実証研究でも構成はさまざまである。また理論、実証研究を基に、経営戦略立案など規範的研究を行う者もいる。自分の採用するアプローチは何かを明確にすると、論述しやすくなる。
- （5）「結論」では、論文で明らかにされた結論（ネット・コントリビューション）がどのように論証され、どのような結論に至ったのかを簡潔にまとめること。また十分に解決されていない点については、今後の研究課題として触れるとよい。
- （6）見出しレベルは、章・節・項の 3 レベル程度までとするのが読みやすい。ただし分野によっては更に「款」のレベルを用いる場合もある。章は「第 1 章 序論」、「第 2 章 先行研究」というように、節は「1. ○○」、「2. ○○」というように、項は「1. 1. ○○」、「1. 2. ○○」、というようにスタイルを設定することが考えられる。

3-2. リサーチペーパーの構成

- （1）リサーチペーパーの構成はリサーチペーパーの課題と分析アプローチにより微妙に異なるが、一般的には大きく、①序論（問題の設定等）、②本論、③結論の三部構成が考えられる。以下を参考に、自分の研究課題とアプローチにふさわしい独自の構成・スタイルを工夫されたい。
- （2）「序論」では、問題の所在、リサーチペーパーの目的（何を明らかにしようとするのか）について触れる。また第 2 章以下の構成について簡潔に説明することは読み易さを増す。
- （3）「本論」では、リサーチペーパーの目的に関連した先行研究のレビューを行い、各自の問題設定に即して、理論的あるいは実証的に検討を行う。文献のレビューの際、各研究の要約を羅列するのではなく、論点について自分自身で整理し、リサーチペーパーの課題に即してまとめることを目指して欲しい。その努力から、リサーチペーパーの意義や分析枠組が導き出される可能性が高まる。
- （4）「結論」では、リサーチペーパーで明らかにされた結論について明示するとともに、結論に至った経緯を簡潔にまとめること。また十分に解決されていない点については、今後の研究課題として触れるとよい。
- （5）見出しレベルは、章・節・項の 3 レベル程度までとするのが読みやすい。ただし分野によっては更に「款」のレベルを用いる場合もある。章は「第 1 章 序論」、「第 2 章 先行研究」というように、節は「1. ○○」、「2. ○○」というように、項は「1. 1. ○○」、「1. 2. ○○」、というようにスタイルを設定することが考えられる。

4. 引用

引用は、著作権保護および自説と他説を峻別するうえで、極めて重要な論文作成上のルールである。

- （1）他人の文章を直接、引用する場合には、本文中の該当個所に、執筆者名（西暦発行年、引用頁）を示し、必ず括弧で囲って引用する。複数の文献を引用する場合は、セミコロン「;」で区切って列挙する。

(例) 小林 (1997, p.63) によれば、「……………」である。あるいは、「……………」(小林、1997、p.63)。

(2) 他人の研究成果や意見を参考にした叙述である場合には、依拠した文献として該当個所に、上記に準じて明記する。

(例) 既存研究によれば、A は B であることがわかっている (小林、1997、p.63 ; 林、1999、第 3 章)。

5. 注

該当個所を更に詳説する場合、またそれに関連する他人の文章や内容について本文以外で言及する場合には、各頁に脚注を付ける。何らかの理由で脚注とすることができない場合は、論文末尾にまとめて、注を付ける。該当個所の右肩に注番号を入れ、通し番号とする。

(例) 本文中：○○○である 1。

論文末：注 1 この点について小林 (1992、pp.166-172) は、○○の角度から直接投資の有効性を指摘している。

6. 図表

図表は自分自身で書き、本文の該当個所に挿入するか、論文末に掲げること。1 頁大は約 800 字相当、半頁大は約 400 字相当、4 分の 1 頁大は約 200 字相当、6 分の 1 頁大は 130 字相当となる。統計データは原資料に基づき自ら作成するか、引用することが望ましい。やむを得ず「孫引き」する場合は、出所と同時に、原資料の出所を明記すること。図表は一つずつ通し番号を付け、タイトルとともに下注に資料名または出所名を書く。

(例) 表 1. 通貨供給増加率の変遷

(資料) 日本銀行『経済統計月報』から作成—自分でデータ加工をした場合 (出所) 日本銀行『経済統計月報』—自分でデータ加工をしない場合 (出所) 林 (1999、p.63)、原資料は日本銀行『経済統計月報』—「孫引き」の場合

7. 参考文献

参考文献は本文や注などで引用または言及したもの限定し、無関係の文献をあげないこと。論文の最後に、邦語の参考文献はあいうえお順に、英語の参考文献はアルファベット順に、それぞれ一括して表示する。記載内容は、以下の順とする。

- ・ 著者名
- ・ 西暦発行年 (かっこで囲む)
- ・ 論文名 (和文献は「 」、洋文献は“ ”を付け、ページ数を書く。)
- ・ 書名、雑誌名 (和書は『 』で囲み、洋書はイタリック体とする。)
- ・ 出版社名

(例) 清成忠男 (1993)『中小企業ルネッサンス』有斐閣。

国友直人 (1996)「構造変化と単位根・共和分仮説」『金融研究』日本銀行金融研究所、第 15 巻第 5 号、1-43 頁。

Tobin, J. (1969) “A General Equilibrium Approach to Monetary Theory,” *Journal of Money, Credit, and Banking*, Vol.1 No.3, pp. 15-29.

なお、参考文献リストの作成は、分野・執筆者によっては、

(例) 清成忠男、『中小企業ルネッサンス』有斐閣、1993 年。

と表記されることもある。その場合でも、引用、注では、清成 (1993) と書くものとする。

参考文献のスタイルは分野によって微妙に異なるので、上記のスタイルは絶対的なものではない。もし指導教員が指定したスタイルがあれば、それに従うこと。また経営学系の論文では、シカゴ大学が公表している「Chicago Manual of Style」や、アメリカ心理学会が公表している「Publication Manual of APA」に準拠することが多いので、もし分からないことがあれば、これらの文献を参考にとよい。

博士後期課程

1. 履修上の注意

経営学研究科では、2016 年度より、博士後期課程においてコースワーク制および科目の単位制を導入しています。これに伴い、2016 年度以降入学者と 2015 年度以前入学者では修了要件が異なりますので、ご注意ください。

課程在学中の博士学位の申請にあたっては、「博士論文申請ガイド」（Web 掲示板掲載）を確認の上、申請することが必要です。また、事前に指導教員の了解を得てください。

【2016 年度以降入学者】

（1）修了要件

論文指導科目（必修科目）	12 単位以上修得
選択必修科目	3 単位以上修得
博士論文	
合計	15 単位以上修得

※選択必修科目は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの各ステップにおいて各ステップ 1 科目は A-評価以上または P 評価を得ることが必要です。

※課程修了には、単位の修得のほか博士論文の審査ならびに最終試験に合格しなければなりません。

※博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を 1 本以上含む必要があるのご留意ください。なお、論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要です。

（2）カリキュラムおよび履修上の指示

履修区分	科目名	単位	履修上の指示	修了所要単位	
論文指導科目 (必修科目)	博士演習Ⅰ A	2	原則 1 年次に履修	12 単位以上 (修了所要単位 に含めること ができるのは 12 単位まで)	計 15 単位 以上
	博士演習Ⅰ B	2			
	博士演習Ⅱ A	2	原則 2 年次に履修		
	博士演習Ⅱ B	2			
	博士演習Ⅲ A	2	原則 3 年次に履修		
	博士演習Ⅲ B	2			
選択必修科目	博士コース ワークショップⅠ A	1	・ 1 年次より履修 ・ どちらかで A-評価 以上または P 評価を 得ること	3 単位以上 (Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの各 ステップにおいて 各ステップ 1 科目 は A-評価以上ま たは P 評価を得る こと)	
	博士コース ワークショップⅠ B	1			
	博士コース ワークショップⅡ A	1	・ Ⅰで A-評価以上ま たは P 評価の修得者 のみ履修可能 ・ どちらかで A-評価 以上または P 評価を 得ること		
	博士コース ワークショップⅡ B	1			
	博士コース ワークショップⅢ A	1	・ Ⅱで A-評価以上ま たは P 評価の修得者 のみ履修可能 ・ どちらかで A-評価 以上または P 評価を 得ること		
	博士コース ワークショップⅢ B	1			

※ 2019 年度より新しい成績評価基準が導入されたことに伴い、選択必修科目各ステップの合格基準は、従来の A 評価以上から、2016 ～ 2019 年度入学者は A-評価以上、2020 年度以降入学者は P 評価となります。

①論文指導科目の履修について

論文指導科目（博士演習）は、12 単位を超えて修得した単位は修了所要単位に含めることができません。
また、選択必修科目（博士コースワークショップ）は 6 単位を超えて修得した単位は修了所要単位に含めることができません。

②開設科目および単位について

博士後期課程開設科目は、連続履修が可能です。

③必修科目および選択必修科目の履修について

休学等でその年次の博士演習を履修できなかった場合、該当学年より下の学年の科目を先に履修してください（例：1 年次に秋学期休学をして翌春復帰した場合、2 年目春学期に「博士演習Ⅱ A」、秋学期に「博士演習Ⅰ B」を履修し、「博士演習Ⅱ B」は 3 年目の秋学期に履修することになります）。

④博士コースワークショップの履修について

博士コースワークショップは、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲという 3 段階のステップからなり、博士コースワークショップの各科目は、副指導教員による指導授業と博士論文中間報告会によって構成されます。博士論文中間報告会は春学期（原則、7 月第 1 土曜日）、秋学期（原則、12 月第 3 土曜日）に各 1 回行われます。なお、Ⅰは研究計画（プロポーザル）、Ⅱは先行研究のサーベイ論文と博士論文を構成する章（少なくとも 1 章分）に該当する研究、Ⅲは博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究で、いずれも論文もしくはそれに準ずる文書を提出し、研究報告を行います。毎年度 1 科目以上を履修してください。

・ 2016 ～ 2019 年度入学者

Ⅱは、Ⅰの評価が A- 評価以上の修得者のみ履修可能で、同様に、Ⅲは、Ⅱの評価が A- 評価以上の修得者のみ履修が可能です。なお、1 年次の春学期にⅠ A を履修し A- 評価以上を得た場合、秋学期はⅠ B ではなくⅡ B を履修することになります。

・ 2020 年度以降入学者

Ⅱは、Ⅰの評価が P 評価（合格）の修得者のみ履修可能で、同様に、Ⅲは、Ⅱの評価が P 評価（合格）の修得者のみ履修が可能です。なお、1 年次の春学期にⅠ A を履修し合格した場合、秋学期はⅠ B ではなくⅡ B を履修することになります。

⑤修士課程設置科目の履修について

修士課程設置科目は修了要件には含まれませんが、自由に履修することができます。他専攻が設置する修士課程設置科目についても同様です。

2. 博士後期課程科目担当者一覧

【2016 年度以降入学者】

授業科目	担当教員名	単位	備 考
博士演習Ⅰ A	指 導 教 員	2	原則 1 年次に履修
博士演習Ⅰ B	指 導 教 員	2	原則 1 年次に履修
博士演習Ⅱ A	指 導 教 員	2	原則 2 年次に履修
博士演習Ⅱ B	指 導 教 員	2	原則 2 年次に履修
博士演習Ⅲ A	指 導 教 員	2	原則 3 年次に履修
博士演習Ⅲ B	指 導 教 員	2	原則 3 年次に履修
博士コースワークショップⅠ A	研究科長／副指導教員	1	1 年次より選択必修
博士コースワークショップⅠ B	研究科長／副指導教員	1	1 年次より選択必修
博士コースワークショップⅡ A	研究科長／副指導教員	1	I で A-評価以上または P 評価の者、選択必修
博士コースワークショップⅡ B	研究科長／副指導教員	1	I で A-評価以上または P 評価の者、選択必修
博士コースワークショップⅢ A	研究科長／副指導教員	1	Ⅱ で A-評価以上または P 評価の者、選択必修
博士コースワークショップⅢ B	研究科長／副指導教員	1	Ⅱ で A-評価以上または P 評価の者、選択必修

※ 2019 年度より 2016 ～ 2019 年度入学者の「博士コースワークショップ」の合格基準は A 評価以上から A-評価以上に変更します。なお、2020 年度以降入学者は、合格の場合、成績評価は P 評価となります。

※法政大学大学院学則の授業科目一覧表に記載のある科目で、上記一覧表に記載のない科目は、2023 年度休講です。

3. 講義概要（シラバス）

授業科目の講義概要および教員の主要研究業績については、Web シラバスを参照してください。

Web シラバス URL : <https://syllabus.hosei.ac.jp/>